NEC Express5800シリーズ
Express5800/GT110b

4

運用・保守編

装置の運用および保守について説明します。

日常の保守

装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アップデートの確認・適用

Express5800シリーズでは、本体および周辺機器のBIOS、FW（ファームウェア）、ドライバなどのアップデート情報を弊社Webサイトの以下のページに掲載しています。システムの安定稼働のため、常に最新のアップデートを適用いただくことをお勧めいたします。

NECコーポレートサイト（http://www.nec.co.jp/）
［サポート・ダウンロード］ー［PCサーバ］

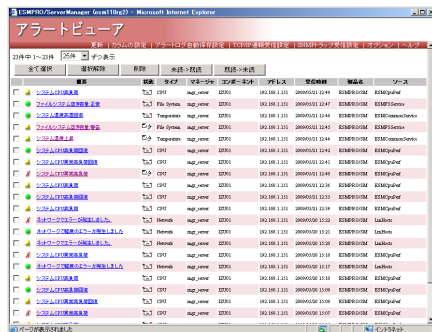
なお、本体のBIOS、FW（ファームウェア）につきましては、適用が必要なアップデートの検出・ダウンロード・適用をサポートするツール「ExpressUpdate」も提供しています。
「ExpressUpdate」は、本体添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内に格納されています。

- 最新アップデートのダウンロードおよび適用作業は、お客様自身で実施ください。
- 最新アップデートの適用にあたっては、万一の場合に備えて、適用前にデータをバックアップされておくことをお勧めいたします。

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。
管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

ESMPROでチェックする画面

ESMPRO/ServerManager

アラートビューア

バックアップ

定期的に装置のハードディスクドライブ内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ハードウェアの構成を変更したり、BIOSの設定を変更したりした後は、オフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」機能を使ってシステム情報のバックアップをとってください（129ページ参照）。

RAIDシステムを構築しているシステムでは、RAIDシステムのコンフィグレーション情報のバックアップをとっておいてください。また、ハードディスクドライブの故障によるリビルドを行った後もコンフィグレーション情報のバックアップをとっておくことをお勧めします。コンフィグレーション情報のバックアップについては、ボードに添付の説明書を参照してください。

クリーニング

装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- **自分で分解・修理・改造はしない**
- **プラグを差し込んだまま取り扱わない**

装置のクリーニング

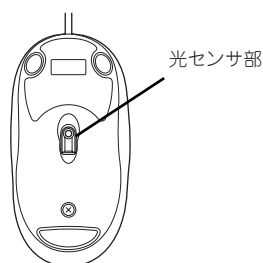
装置の外観の汚れは、柔らかい乾いた布で汚れを拭き取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。

- **シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。**
- **コンセント、ケーブル、装置背面のコネクタ、装置内部は絶対に水などでぬらさないでください。**

1. 装置の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。
2. 装置の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。

4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。

キーボード/マウスのクリーニング

キーボードは装置および周辺機器を含むシステム全体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で拭いてください。
マウスは光センサ部が汚れていると正常に機能しません。光センサ部に付いた汚れは乾いた布で拭き取ってください。

CD/DVD-ROMのクリーニング

CD/DVD-ROMにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、CD/DVD-ROMのクリーニングを行います。

1. 装置の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認する。
2. 光ディスクドライブ前面のCDトレーイジェクトボタンを押す。

   トレーが光ディスクドライブから出てきます。
3. CD/DVD-ROMを軽く持ちながらトレーから取り出す。

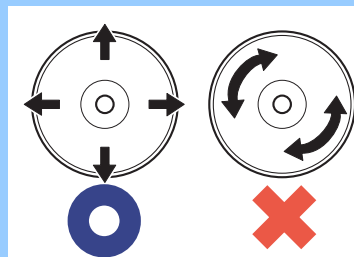
CD/DVD-ROMの信号面に手が触れないよう注意してください。

4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

光ディスクドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。

5. トレーを軽く押してトレーを光ディスクドライブに戻す。
6. CD/DVD-ROMの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

重要

CD/DVD-ROMは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、CD/DVD-ROM専用のクリーナであることをお確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。

テープドライブのクリーニング

テープドライブのヘッドの汚れはファイルのバックアップの失敗やテープカートリッジの損傷の原因となります。定期的に専用のクリーニングテープを使ってクリーニングしてください。クリーニングの時期やクリーニングの方法、および使用するテープカートリッジの使用期間や寿命についてはテープドライブに添付の説明書を参照してください。

システム診断

システム診断は装置に対して各種テストを行います。
「EXPRESSBUILDER」の「Tool menu」から「Test and diagnostics」を選択して診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- 装置に取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクドライブのチェック

システム診断を行う時は、必ず装置に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。

ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

システム診断には、装置に直接接続されたコンソール（キーボード）を使用する方法と、シリアルポート経由で接続されている管理PCのコンソールを使用する方法（コンソールレス）があります。
それぞれの起動方法は次のとおりです。

コンソールレスを使用して起動する場合はBIOSとターミナルソフトウェアのボーレートを19200ビット/秒に設定してください。

1. シャットダウン処理を行った後、装置の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
2. 装置に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
3. 電源コードをコンセントに接続し、装置の電源をONにする。
4. 「EXPRESSBUILDER」DVDを使ってシステムを起動する。

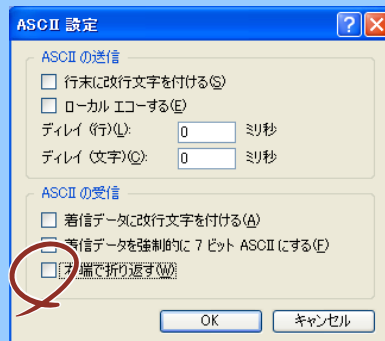
5. 本装置のコンソールを使用して起動する場合は「Tool menu（Normal mode)」を、コンソールレスで起動する場合は「Tool menu（Redirection mode)」を選択する。

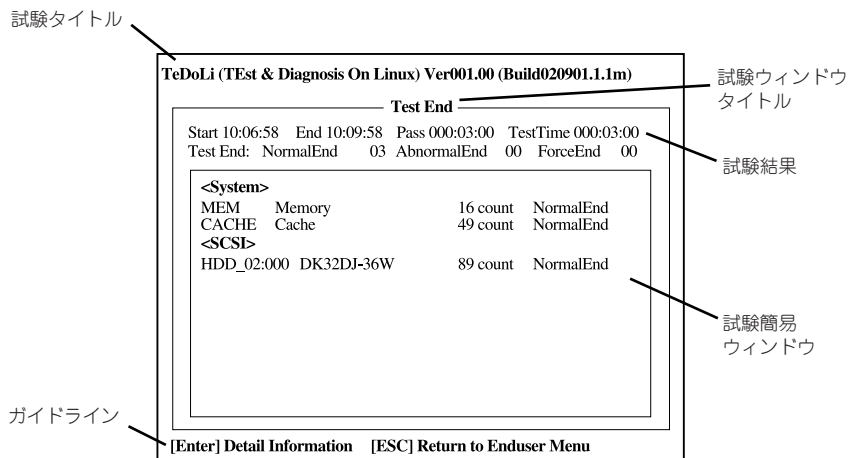
システムによっては、Language selectionメニューが表示される場合があります。Language selectionメニューが表示された場合は「Japanese」を選択します。
また、“Hit any key.”というメッセージが表示される場合があります。表示された場合、何かキーを押してください。

シリアルコンソールにWindowsのハイパーターミナルを使用される場合には、以下の設定が必要です。

＜Windows XPでの例＞

① ハイパーターミナルの画面上部にある、選択項目からファイル配下のプロパティを選択し、接続のプロパティを開いてください。

② 接続プロパティの設定タブにて、[ASCⅡ設定]画面を開き[右側で折り返す]のチェックを外してください。

6. TOOL MENUの「Test and diagnostics」を選択する。

Test and diagnosticsの「End-User Mode」を選択してシステム診断を開始します。約3分で診断は終了します。
診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。

試験タイトル
診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。

試験ウィンドウタイトル
診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。

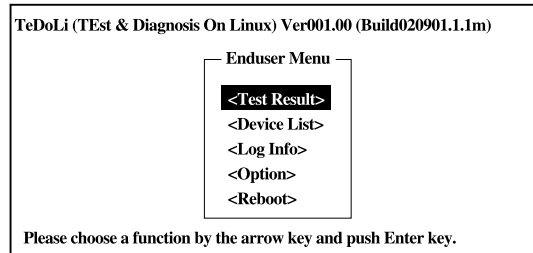
試験結果
診断開始・終了・経過時間および終了時の状態を表示します。

ガイドライン
ウィンドウを操作するキーの説明を表示します。

試験簡易ウィンドウ
診断を実行した各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は試験簡易ウィンドウの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。
エラーを検出した試験にカーソルを移動し<Enter>キーを押し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録してお買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

7. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押す。

   以下のエンドユーザーメニューを表示します。

   <Test Result>
   前述の診断終了時の画面を表示します。

   <Device List>
   接続されているデバイス一覧情報を表示します。

   <Log Info>
   試験ログを表示します。試験ログを保存することができます。試験ログを保存する場合は、FATフォーマット済みのリムーバブルメディアをセットし、<Save(F)>を選択してください。

   <Option>
   オプション機能が利用できます。

   <Reboot>
   システムを再起動します。

8. 上記エンドユーザーメニューで<Reboot>を選択する。

   再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。

9. EXPRESSBUILDERを終了し、光ディスクドライブからDVDを取り出す。
10. 装置の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
11. 手順2で取り外したLANケーブルを接続し直す。
12. 電源コードをコンセントに接続する。

以上でシステム診断は終了です。

障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。
障害発生個所や内容の確認ができたら､故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。

エラーメッセージ

装置になんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

POST中のエラーメッセージ

装置の電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。また、エラーの内容によってはビープ音でエラーが起きたことを通知します。

次にエラーメッセージの一覧と原因、その対処方法を示します。

保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示やビープ音のパターンをメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

POST のエラーメッセージ一覧は本体のみのものです。マザーボードに接続されているオプションのSCSIコントローラボード、RAIDコントローラに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付の説明書を参照してください。

画面に表示されるエラーメッセージ

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0200	Failure Fixed Disk	ハードディスクドライブエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0210	Stuck Key	キーボード接続エラー。	キーボードを接続し直してください。
0213	Keyboard locked - Unlock key switch	キーボードがロックされている。	キースイッチのロックを解除してください。ロックを解除しても直らない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
0220	Monitor type does not match CMOS - Run SETUP	モニタのタイプが CMOS と一致しない。	BIOS セットアップを起動して設定変更してください。設定変更で直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0230	System RAM Failed at offset:	システム RAM エラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0231	Shadow Ram Failed at offset:	シャドウ RAM エラー。	
0232	Extended RAM Failed at address offset:	拡張 RAM エラー。	
0250	System battery is dead - Replace and run SETUP	システムのバッテリがない。	保守サービス会社に連絡してリチウムバッテリを交換してください。(交換後、BIOS セットアップを起動し、設定し直してください。)
0251	System CMOS checksum bad - Default configuration used	システム CMOS のチェックサムが正しくない。	BIOS セットアップでデフォルト値が設定されました。BIOS セットアップを起動して、設定し直してください。エラーが表示され続ける場合には保守サービス会社に連絡してください。
0252	Password checksum bad - Passwords cleared	パスワードのチェックサムが正しくない。	パスワードがクリアされました。BIOS セットアップを起動しパスワードを再設定してください。
0260	System timer error	システムタイマーエラー。	BIOS セットアップを起動して、時刻や日付を設定し直してください。設定し直しても同じエラーが続けて起きるときは保守サービス会社に連絡してください。
0270	Real time clock error	リアルタイムクロックエラー。	
0271	Check date and time settings	リアルタイムクロックの時刻設定に誤りがある。	
02D0	System cache error - Cache disabled	システムキャッシュエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
02D1	System Memory exceeds the CPU's caching limit.	メモリがシステムキャッシュの限界を超えた。	保守サービス会社に連絡してください。
02F4	EISA CMOS not writeable	EISA CMOS に書き込めない。	
02F5	DMA Test Failed	DMA テストエラー。	
02F6	Software NMI Failed	ソフトウェア NMI エラー。	
02F7	Fail-safe Timer NMI Failed	フェイルセーフタイマの NMI エラー。	
0613	Com A configuration changed	COM A の設定が変更された。	COM A の設定を確認してください。
0614	Com A config.error - device disabled	COM A の設定エラー	
0615	Com B configuration changed	COM B の設定が変更された。	COM B の設定を確認してください。
0616	Com B config.error - device disabled	COM B の設定エラー	

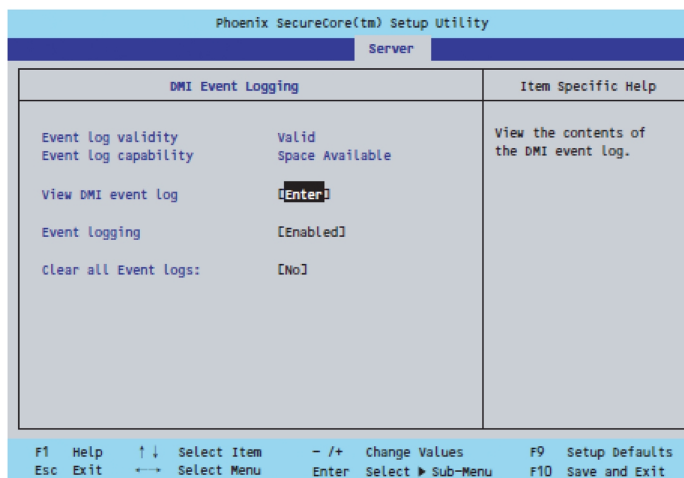
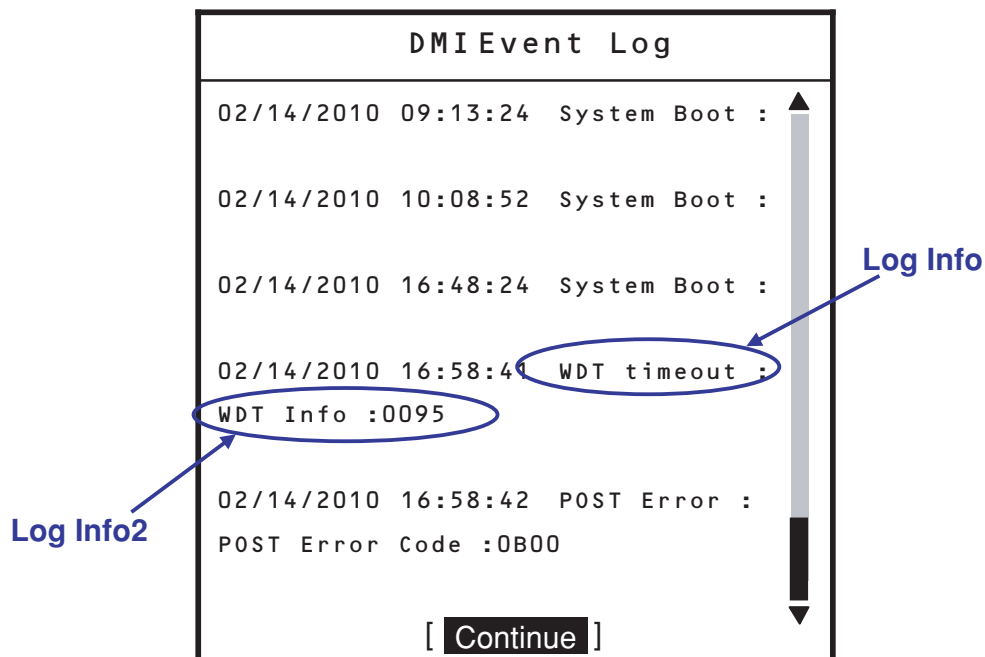
ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0B00	WDT timeout occurred at previous boot in POST.	前回のブート時に POST 中に WDT タイムアウトが発生した。	装置を再立ち上げ（リセット）してください。正常に起動した場合は DMI ログを確認してください。
0B01	WDT timeout occurred at previous boot in OS boot.	前回の OS ブート時に WDT タイムアウトが発生した。	
0B02	WDT timeout occurred at previous boot in OS running.	前回の OS 動作中に WDT タイムアウトが発生した。	
0B28	Unsupported CPU detect on CPU Slot	サポート対象外のプロセッサが搭載されている。	保守サービス会社に連絡してください。
0B60	DIMM group #1 has been disabled	メモリエラーを検出し、DIMM#1 が縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。
0B61	DIMM group #2 has been disabled	メモリエラーを検出し、DIMM#2 が縮退している。	
0B62	DIMM group #3 has been disabled	メモリエラーを検出し、DIMM#3 が縮退している。	
0B63	DIMM group #4 has been disabled	メモリエラーを検出し、DIMM#4 が縮退している。	
0B6F	DIMM group with error is enabled	DIMM でエラーを検出したが、エラーが発生している DIMM で強制起動している	
0B7E	Mismatched FAN control Mode setting. Please set the FAN control mode on BIOS SETUP.	BIOS Setup “ FAN Control Mode ” の設定が “ Low ” に設定されているが、装置構成が条件を満足していない。	BIOS セットアップの設定を変更してください。
0BB0	SMBIOS - SROM data read error.	SROM のリードエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0BB1	SMBIOS - data checksum bad.	SROM データチェックサムエラー。	
8151	Password Cleared By Jumper	ジャンパによってパスワードがクリアされた。	電源オフ後にパスワードクリアジャンパを元に戻してください。
8800	PECI - Communication Error	PECI インタフェースの初期化エラー	保守サービス会社に連絡してください。
9000	PCI Slot#1 PCIE Link Training Error.	PCI Slot#1Link Training エラー。	エラーが発生している PCI Slot に実装している PCI カードを実装し直してください。それでもエラーが発生し続ける場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
9001	PCI Slot#2 PCIE Link Training Error.	PCI Slot#2Link Training エラー。	
9002	PCI Slot#3 PCIE Link Training Error.	PCI Slot#3Link Training エラー。	
-	Expansion ROM not initialized - PCI Mass Storage Controller in slot xx	Slot xx に実装した PCI カードのオプション ROM が展開されない。	RAID コントローラや LAN ボード (ネットワークブート) で、OS がインストールされたハードディスクドライブを接続しない場合は、その PCI スロットのオプション ROM 展開を “ Disabled ” に設定してください。

ビープ音によるエラー通知

POST中にエラーを検出しても、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示できない場合があります。この場合は、一連のビープ音でエラーが発生したことを通知します。エラーはビープ音のいくつかの音の組み合わせでその内容を通知します。
たとえば、ビープ音が1回、連続して3回、1回、1回の組み合わせで鳴った（ビープコード: 1-3-1-1）ときはDRAMリフレッシュテストエラーが起きたことを示します。
次にビープコードとその意味、対処方法を示します。

ビープコード	意　味	対処方法
3-3-(繰り返し)	ROMチェックサムエラー	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1-2-2-3	ROMチェックサムエラー	
1-3-1-1	DRAMリフレッシュテストエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。復旧しなければ保守サービス会社に連絡してDIMMまたはマザーボードを交換してください。
1-3-1-3	キーボードコントローラテストエラー	キーボードを接続し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1-3-3-1	メモリを検出できない メモリの容量チェック中のエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してDIMM、またはマザーボードを交換してください。
1-1-1-1	DRAMアドレスエラー	
1-3-4-3	DRAMテストLowByteエラー	
1-4-1-1	DRAMテストHighByteエラー	
2-1-2-1	BIOS ROMコピーライトテストエラー	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
2-2-3-1	不正割り込みテストエラー	
1-2	オプションROM初期化エラー	BIOSセットアップの設定を確認してください。また、増設したPCIボードのオプションROMの展開が表示されない場合は、PCIボードの取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡して、増設したPCIボード、またはマザーボードを交換してください。

DMIイベントログ

BIOS セットアップのServer メニューで「DMI Event Logging」を選択し、View DMI event Logの[Enter]を押してください。
システムに保存されているDMIイベントログを表示することができます。

DMIイベントログ表示例

DMI Event Logメッセージ

Log Info	Log Info2	意味	対処方法
Memory Correctable	Error Info: 0100	DIMM#1 で訂正可能なエラーが発生しました。	装置を再起動して BIOS セットアップに入り、Advanced メニュー「Memory Configuration」に表示されている DIMM の状態（DIMM Group #1 - #4Status）を確認してください。エラーが発生した DIMM を実装し直し、装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
	Error Info: 0200	DIMM#2 で訂正可能なエラーが発生しました。	
	Error Info: 0300	DIMM#3 で訂正可能なエラーが発生しました。	
	Error Info: 0400	DIMM#4 で訂正可能なエラーが発生しました。	
Memory Uncorrectable	Error Info: 0100	DIMM#1 で訂正不可能なエラーが発生しました。	装置を再起動して BIOS セットアップに入り、Advanced メニュー「Memory Configuration」に表示されている DIMM の状態（DIMM Group #1 - #4Status）を確認してください。エラーが発生した DIMM を実装し直し、装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
	Error Info: 0200	DIMM#2 で訂正不可能なエラーが発生しました。	
	Error Info: 0300	DIMM#3 で訂正不可能なエラーが発生しました。	
	Error Info: 0400	DIMM#4 で訂正不可能なエラーが発生しました。	
PCI PERR	Error Info: XXXX	PCI#4 でパリティエラーが発生しました。	PCI#4 に実装されているオプションカードの実装状況を確認し、装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
PCI SERR	Error Info: XXXX	PCI#4 でシステムエラーが発生しました。	
PCIe UncErr	Error Info: 80XX	オンボード LAN で訂正不可能なエラーが発生しました。	装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
	Error Info: 90XX	PCI#1 で訂正不可能なエラーが発生しました。	エラーが発生した PCI スロットに実装されているオプションカードの実装状況を確認し、装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
	Error Info: A0XX	PCI#2 で訂正不可能なエラーが発生しました。	
	Error Info: B0XX	PCI#3 で訂正不可能なエラーが発生しました。	
Proc Internal	Error Info: 00	プロセッサ内部エラーが発生しました。	プロセッサの実装状況を確認し、装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
POST Error	POST Error Code: XXXX	POST エラーが発生しました。	対処方法は「POST 中のエラーメッセージ」を参照してください。
WDT timeout	WDT Info: 00XX	前回の起動時 POST でウォッチドックタイムアウトが発生しました。	装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
	WDT Info: 00C0	前回の OS 起動時にウォッチドックタイムアウトが発生しました。	装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
	WDT Info: 01C0	前回の OS 動作中にウォッチドックタイムアウトが発生しました。	装置を再起動してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社へ連絡してください。
Log Area Cleared	（なし）	DMI ログ領域が初期化され、ログを消去しました。	エラーではありません。
System Boot	（なし）	POST が完了しました。	エラーではありません。

Windowsのエラーメッセージ

Windowsの起動後に致命的なエラー（STOPエラーやシステムエラー）が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

```
*** STOP: 0x0000000A (0x00000074, 0x00000002, 0x00000001, 0x80108E7A)
IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL*** Address 80108E7A has base at 8010000 _ ntoskrnl.exe
```

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
また、このエラーが起きると自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します（「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」109ページ参照）。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーしての保守員に渡せるよう準備しておいてください。

STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManagerなどの管理ツールを本装置や管理PCへインストールしておくと、何らかの障害が起きたときに管理PCや装置に接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。

各種アプリケーションのインストールや運用方法についてはソフトウェア編、またはオンラインドキュメントを参照してください。
ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプで詳しく説明されています。

トラブルシューティング

思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。
それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

本体について

[?] 電源がONにならない

□ 電源が装置に正しく供給されていますか？

→ 電源コードが装置の電源規格に合ったコンセント（またはUPS）に接続されていることを確認してください。

→ 装置に添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。

→ 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。

→ UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。
また、BIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。

□ POWER/SLEEPスイッチを押しましたか？

→ 装置前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押して電源をON（POWER/SLEEPランプ点灯）にしてください。

[?] POSTが終わらない

□ メモリが正しく搭載されていますか？

→ 最低1枚のDIMMが搭載されていないと動作しません。

□ 大容量のメモリを搭載していますか？

→ 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

□ システムの起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？

→ 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。

□ 本装置で使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか？

→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

【?】 システムの起動に時間がかかる・システムが起動しない

□ オプションボードのROM展開やネットワークブート（PXEブート）を有効にしていませんか？

→ SCSIコントローラで、OSがインストールされているハードディスクドライブを接続しない場合はそのボードのROM展開を無効にしてください。また、オプションのネットワークインタフェースカード（NIC）を介したネットワークブート（PXEブート）をしない場合もNICに搭載しているROMの展開を無効にすることにより、メモリの消費を防ぎ、起動時間を短縮させることができます。
<確認するメニュー：「Advanced」→「PCI Configuration」→各種コントローラのサブメニュー>

OSがインストールされているハードディスクドライブを接続しない場合はそのボードのROM展開を「Disabled」にしてください。展開領域が不足する可能性があります。

【?】 内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない（または正しく動作しない）

□ ケーブルは正しく接続されていますか？

→ インタフェースケーブルや電源ケーブル（コード）が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。

□ 電源ONの順番を間違っていませんか？

→ 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、装置の順に電源をONにします。

□ ドライバをインストールしていますか？

→ 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要なものがあります。デバイスに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。

□ オプションボードの設定を間違えていませんか？

→ PCIデバイスについては通常、特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付の説明書を参照して正しく設定してください。

→ シリアルポートやパラレルポート、USBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。

【?】キーボードやマウスが正しく機能しない

□ ケーブルは正しく接続されていますか？

→ 装置背面や前面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。

→ 装置の電源がONになっている間に接続すると正しく機能しません（USBデバイスを除く）。いったん本体の電源をOFFにしてから正しく接続してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ BIOSセットアップユーティリティでキーボードの機能を変更することができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。

→ ドライバをインストールしていますか？

→ 使用しているOSに添付のマニュアルを参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください（これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます）。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付の説明書を参照して正しく設定されているかどうか確認してください。

【?】DVD/CD-ROMにアクセスできない・正しく再生できない

□ 光ディスクドライブのトレーに確実にセットしていますか？

→ トレーにはDVD/CD-ROMを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。

□ 本装置で使用できるDVD/CD-ROMですか？

→ DVD/CD規格に準拠しない「コピーガード付きDVD/CD」などのディスクにつきましては、DVD/CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。

→ Macintosh専用のDVD/CD-ROMは使用できません。

【?】正しいDVD/CD-ROMを挿入したのに以下のメッセージが表示される

CD-ROMが挿入されていないか、誤った
CD-ROMが挿入されています。
正しいCD-ROMを挿入してください。

OK

□ DVD/CD-ROMのデータ面が汚れていたり、傷ついていたりしていませんか？

→ 光ディスクドライブからDVD/CD-ROMを取り出し、よごれや傷などがないことを確認してから、再度DVD/CD-ROMをセットし、［OK］をクリックしてください。

【?】 ハードディスクドライブにアクセスできない

□ 装置で使用できるハードディスクドライブですか？

→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ ハードディスクドライブは正しく取り付けられていますか？

→ ハードディスクドライブの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。また、ハードディスクドライブを固定するネジはハードディスクドライブに添付されているネジを使用してください。

【?】 DISKアクセスランプが緑色に点灯する

→ ハードディスクドライブにアクセスしているときに緑色に点灯します。このランプの緑色表示は故障を意味するものではありません。

【?】 SCSI機器（内蔵・外付け）にアクセスできない

□ 装置で使用できるSCSI機器ですか？

→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ SCSIコントローラの設定を間違えていませんか？

→ オプションのSCSIコントローラボードを搭載し、SCSI機器を接続している場合は、SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラボードに添付の説明書を参照してください。

□ SCSI機器の設定を間違えていませんか？

→ 外付けSCSI機器を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です。詳しくはSCSI機器に添付の説明書を参照してください。

【?】 OSを起動できない

□ 「EXPRESSBUILDER」DVDをセットしていませんか？

→ 「EXPRESSBUILDER」DVDを取り出して再起動してください。

□ OSが破損していませんか？

→ Windowsの修復プロセスを使って修復を試してください（358ページ）。

【?】 ネットワーク上で認識されない

☐ ケーブルを接続していますか？

→ 装置背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。

☐ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ BIOSセットアップユーティリティで内蔵のネットワークコントローラを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。

☐ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？

→ 装置ネットワークコントローラ用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

☐ 転送速度の設定を間違えていませんか？

→ 装置に標準装備の内蔵ネットワークコントローラは、転送速度が1000Mbps、100Mbpsと10Mbpsのネットワークでも使用することができます。この転送速度の切り替えまたは設定はOS上から行えますが、「自動検出」という機能は使用せず、1000Mbps、100Mbpsまたは10Mbpsのいずれかに設定してください。
また、接続しているHubと転送速度やデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

【?】 電源ケーブルを接続すると、POWER/SLEEPランプが点灯する

→ AC電源が供給された直後は、POWER/SLEEPランプが点灯しますが故障ではありません。
一度、POWER/SLEEPスイッチをON/OFFすると消灯します。

Windowsについて

【?】 Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008のシステム起動時、次のような内容の警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　：27
ソース　：e1qexpress
種類　：警告
説明　：Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection
Network link has been disconnected.

→ システム起動時に記録される場合、システム動作上問題ありません。

【?】 Windows Server 2008 R2 のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある

イベント ID　：134
ソース　：Microsoft-Windows-Time-Service
種類　：警告
説明　：'' でのDNS 解決エラーのため、NtpClient でタイムソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。3473457 分後に再試行し、それ以降は2倍の間隔で再試行します。

→ システム運用上問題ありません。

【?】 Windows Server 2008 R2 のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある

イベント ID　：1534
ソース　：Microsoft-Windows-User Profiles Service
種類　：警告
説明　：'コンポーネント {56EA1054-1959-467f-BE3B-A2A787C4B6EA} のイベント
Create のプロファイル通知は失敗しました。

→ システム運用上問題ありません。

イベント ID　：1015
ソース　：Microsoft-Windows-Security-SPP
種類　：警告
説明　：HRESULT の詳細情報。
返されたhr = 0xC004F022、元のhr = 0x80049E00

→ ライセンス認証後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。

【?】 Windows Server 2008 R2の運用中、iSCSIを認識している状態でOSを再起動した場合、次のような警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　：1
ソース　：iScsiPrt
種類　：エラー
説明　：イニシエーターはターゲットへの接続に失敗しました。ダンプ データにターゲットIPアドレスとTCPポート番号が示されています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/976072/ja

[?] Windows Server 2008 R2の運用中、書き込み禁止ボリュームを有するサーバへシャドーコピーインポートを行った場合、次のような警告がアプリケーションイベントログに記録される場合がある

イベント ID : 8193
ソース : VSS
種類 : エラー
説明 : ボリュームシャドウコピーサービスエラー :ルーチンIOCTL_DISK_GET_DRIVE_LAYOUT_EX(¥¥?¥mpio#disk&ven_nec&prod_istorage_1000&rev_1000#1&7f6ac24&0&3030303030303030313030303030323830303046 36#{53f56307-b6bf-11d0-94f2-00a0c91efb8b})- BuildLunInfoForDriveの呼び出し中に予期しないエラーが発生しました。
hr = 0x80070013, このメディアは書き込み禁止になっています。

イベント ID : 12289
ソース : VSS
種類 : エラー
説明 : 予期しないエラー DeviceIoControl(¥¥?¥storage#volume#_??_mpio#disk&ven_nec&prod_istorage_1000&rev_1000#1&7f6ac24&0&30303030303030303130303030303238303030 4636#{ GUID }#0000000000007e00#{ GUID }-00000000000002B8,x00560000,0000000000000000,0,00000000004866D0,4096,[0])です。
hr = 0x80070013, このメディアは書き込み禁止になっています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/2003016/ja

[?] Windows Server 2008 R2の運用中、書き込み禁止ボリュームを有するサーバ、もしくはフロッピードライブを有するサーバへシャドーコピーインポートを行った場合、次のような警告がアプリケーションイベントログに記録される場合がある

イベント ID : 12289
ソース : VSS
種類 : エラー
説明 : ボリューム シャドウ コピー サービス エラー :予期しないエラー DeviceIoControl(¥¥?¥fdc#generic_floppy_drive#6&6a032c4&0&0#{ GUID }-00000000000002B0,0x00560000,0000000000000000,0,00000000001EC0E0,4096,[0])です。
hr = 0x80070001, ファンクションが間違っています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/2003968/ja

[?] Windows Server 2008 R2 環境で「システムのアップデート」を実行すると、シャットダウン時に以下のメッセージが一瞬表示されることがある

```
1 個のプログラムが閉じられていません :
(待機中) Task Host Window
```

→ システムの運用上、問題ありません。
詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/975777/ja-jp

[?] Windosws Server 2008 R2 Foundationをインストールすると、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある

イベント ID　:　7031
ソース　:　Service Control Manager
種類　:　エラー
説明　:　Server Infrastructure License Servise サービスは予期せぬ原因により終了しました。このサービスの終了は 1 回目です。
次の修正操作が 16 ミリ秒以内に実行されます。

→　OS インストール中に複数回登録される場合がありますが、システムの運用上問題ありません。

[?] Windows Server 2008のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある

イベント ID　:　5
ソース　:　storflt
種類　:　警告
説明　:　the Virtual Storage Filter Driver is disabled through the registry.
It is inactive for all disk drivers.

イベント ID　:　134
ソース　:　Microsoft-Windows-Time-Service
種類　:　警告
説明　:　'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。
15 分後に再試行し、それ以降は再試行間隔を 2 倍にします。
エラー : Hote inconnu. (0x80072AF9)

イベント ID　:　263
ソース　:　PlugPlayManager
種類　:　警告
説明　:　サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイス イベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

イベント ID　:　7000
ソース　:　Service Control Manager
種類　:　エラー
説明　:　Parallel port driver サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした: '指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。

イベント ID　:　15016
ソース　:　Microsoft-Windows-HttpEvent
種類　:　エラー
説明　:　サーバー側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データ フィールドにはエラー番号が格納されています。

→　システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2008のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある

イベント ID : 63
ソース : Microsoft-Windows-WMI
種類 : 警告
説明 : プロバイダ Ncs2 は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ IntelEthernetDiag は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥CIMv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root¥cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

イベント ID : 1020
ソース : EvntAgnt
種類 : エラー
説明 : レジストリパラメータの処理中にエラーが発生しました。
拡張エージェントは終了中です。

イベント ID : 1054
ソース : Security-Licensing-SLC
種類 : 警告
説明 : コンポーネントエラーです。hr=0x80049E00, [4, 3]

イベント ID : 2019
ソース : EvntAgnt
種類 : エラー
説明 : SNMP Event Log Extension Agentが正しく初期化されませんでした。

イベント ID : 3001
ソース : EvntAgnt
種類 : 警告
説明 : ログファイルは末尾に配置されませんでした。

イベント ID : 3003
ソース : EvntAgnt
種類 : 警告
説明 : ログファイルの終わりの配置エラー
一番古いログレコードを取得できません。指定されたハンドルは17891340です。
GetOldestEventLogRecordからのリターンコードは223です。

→ システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2008のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　：10
ソース　：VDS 動的なプロバイダ
説明　：ドライバからの通知を格納するが、プロバイダに失敗しました。
仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。hr = 80042505

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照ください。
http://support.microsoft.com/kb/948275/ja

[?] Windows Server 2008のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある

ソース　：Microsoft-Windows-Security-Licensing-SLC
種類　：警告
イベント ID　：1021
説明　：SLUINotify サービスを開始できませんでした。hr=0x80070424

→ ライセンス認証画面より、ライセンス認証を行ってください。

ソース　：Microsoft-Windows-User Profiles Service
種類　：警告
イベント ID　：1534
説明　：コンポーネント {56EA1054-1959-467f-BE3B-A2A787C4B6EA} のイベント Create のプロファイル通知は失敗しました。
エラー コードは -2147023591 です。

→ ログオン時一度登録される場合がありますが、システム運用上問題ありません。

[?] Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008にてシームレスインストール/システムのアップデート時にを行うと、以下のようなログがアプリケーションログに登録される場合がある

イベントID　：63
ソース　：WMI
種類　：警告
説明　：プロバイダNcs2　はLocalSystem　アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　：LoadPerf
種類　：エラー
イベントID　：3009

説明：サービス C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini (C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini) のパフォーマンスカウンタの文字列をインストールできませんでした。
エラーコードはデータセクションの最初のDWORDです。

→　システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　：DCOM
種類　：エラー
イベントID　：10016

説明：コンピュータ既定権限の設定では、CLSID {555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7} をもつCOMサーバーアプリケーションに対するローカル アクティブ化アクセス許可をユーザー NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19)に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。

→　システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　：WinMgmt
種類　：警告
イベントID　：5603

説明：プロバイダRsop Planning Mode ProviderはWMI名前空間root¥RSOPに登録されましたが、HostingModelプロパティが指定されませんでした。
このプロバイダはLocalSystemアカウントで実行されます。
このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。
プロバイダのセキュリティの動作を確認し、プロバイダ登録のHostingModelプロパティを、必要な機能が実行可能な最小限の権限を持つアカウントに更新してください。

→　システム運用上、問題ありません。

【?】 Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　　：WinMgmt
種類　　　：警告
イベントID ：63

説明：プロバイダHiPerfCooker_v1はLocalSystemアカウントを使うためにWMI名前空間Root¥WMIに登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

：プロバイダ WMIProv は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間Root¥WMIに登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→　システム運用上、問題ありません。

【?】 Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　　：Service Control Manager
種類　　　：エラー
イベントID ：7011

説明：Dfs サービスからのトランザクション応答の待機中にタイムアウト(30000 ミリ秒) になりました。

→　再起動後にこのイベントが登録されていない場合、問題ありません。

【?】 Windows Server 2003 サービスパックを適用後、Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストールした

→　サービスパックを再適用してください。なお、Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストール後に一度でもサービスパックを適用している場合は、サービスパックを再適用する必要はありません。

＊　インストール時の適用順序が不明な場合は、サービスパック再適用を推奨します。

[?] Windows Server 2003 R2の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　　　：IPMIDRV
種類　　　　：エラー
イベントID ：1001

説明：IPMIデバイスドライバは、IPMI BMCデバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとしました。このドライバは、SMBIOSのType38 レコードを検索できることでIPMI BMCを検出しようとしましたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイスドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOSのType 38 レコードが見つかっている場合は、イベントのDump Dateフィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

→ Windows Server 2003 R2において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。
詳細な内容については、下記の「Windows Server 2003 R2で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」を参照してください。

http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/w2k3r2_wm.pdf

[?] システム起動時に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される

イベントID ：11
ソース　　　：iANSMiniport
種類　　　　：警告
分類　　　　：なし

説明：次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R) ～

イベントID ：13
ソース　　　：iANSMiniport
種類　　　　：警告
分類　　　　：なし

説明：Intel(R) ～　がチームで無効化されました。

イベントID ：16
ソース　　　：iANSMiniport
種類　　　　：警告
分類　　　　：なし

説明：[チーム名]、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

イベントID ：22
ソース　　　：iANSMiniport
種類　　　　：警告
分類　　　　：なし

説明：プライマリアダプタはプローブを検出しませんでした。
Intel(R) ～ 原因でチームが分割されている可能性があります。

→ ネットワークアダプタでチームを設定した場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LANドライバの動作上問題ありません。

【?】 以下のメッセージが表示されログインできなくなった

> Windows 製品のライセンス認証
>
> 続行する前にWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。
> 手続きが完了するまでログオンすることはできません。
> 今すぐ手続きを実行しますか?
> コンピュータをシャットダウンするには[キャンセル]をクリックしてください。
>
> [はい(Y)] [いいえ(N)] [キャンセル]

□ Windows製品のライセンス認証手続きを完了していますか?

→ Windows Server 2003では、Windows製品のライセンス認証手続きを完了しないまま使用していると、上記のメッセージが表示されます。[はい]を選んでWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。

【?】 Windows Server 2003の運用中、イベントビューアに下記内容のEvntAgntの警告が登録される場合がある

イベントID ：1003

説明 ：TraceFileNameパラメータがレジストリにありません。
使用した既定のトレースファイルはです。

イベント ID：1015

説明 ：TraceLevel パラメータがレジストリにありません。
使用した既定のトレース レベルは32です。

→ システム運用上、問題ありません。

【?】 Windows Server 2003/Windows Server 2003 x64 Editionsの運用中、標準装備のネットワークアダプタでネットワークで通信ができない状態でシステムを起動すると次のような内容のログがシステムイベントログに記録される場合がある

イベントID ：32
ソース ：e1qexpress
種類 ：情報

説明 ：Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection
Network link has been established at 1Gbps full duplex.

→ システム起動時に記録される場合、システム動作上問題ありません。

【?】 Windows Server 2003/Windows Server 2003 x64 EditionsでIntel(R) PROSetをインストール時にアプリケーションログに次のような警告が記録される場合がある

イベントID ：5603
ソース ：WinMgmt
種類 ：警告

説明 ：プロバイダ Ncs2 は WMI 名前空間 Root¥IntelNCS2 内で登録されましたが、HostingModel プロパティを指定しませんでした。このプロバイダは、LocalSystem アカウントを使って実行されます。このアカウントは特権を与えられているため、プロバイダが正しくユーザー要求を偽装できない場合、セキュリティ違反を起こす可能性があります。

→ システム運用上問題ありません。

[?] Windowsのインストールが正しくできない

□ インストール時の注意事項を確認していますか？

→ Windows Server 2003は85ページ（または、オンラインドキュメント）を参照してください。

[?] Windowsのインストール中、イベントビューアのシステムログに次のような内容の警告が記録される

ページング操作中にデバイス ¥Device¥CdRom0上でエラーが検出されました。

→ システムの運用上、問題ありません。

[?] Windowsのインストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない

□ 複数のハードディスクドライブを接続したり、複数の論理ドライブを作成してインストールを行っていませんか？

→ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブをいったん取り外した状態でインストールを行ってください。

→ RAIDシステムを構築してOSをインストールする場合は、論理ドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールを行ってください。複数の論理ドライブを作成する場合は、インストール完了後、RAIDシステムのコンフィグレーションユーティリティを使用して追加作成してください。

[?] Windowsのインストール中、イベントビューアのシステムログに以下のログが出力される

サーバはトランスポート¥Device¥NetBT_Tcpip_{.....}にバインドできませんでした。

トランスポートが初期アドレスのオープンを拒否したため、初期化に失敗しました。

ネットワークの別のコンピュータが同じ名前を使用しているため、サーバーはトランスポート ¥Device¥NetbiosSmbにバインドできませんでした。サーバーを起動できませんでした。

→ ネットワークドライバの更新時に発生します。システムの運用上、問題ありません。

[?] Windowsのインストール後にデバイスマネージャで日本語106/109 キーボードが英語101/102 キーボードと認識される

→ デバイス マネージャでは英語101/102キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語106/109キーボードの配列で行うことができます。日本語106/109キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。

(1) ［スタートメニュー］から［設定］を選択し、［コントロールパネル］を起動する。

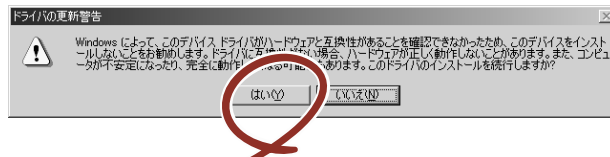
(2) ［管理ツール］内の［コンピュータの管理］を起動し、［デバイスマネージャ］をクリックする。

(3) ［キーボード］をクリックし、以下のプロパティを開く。
101/102英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2キーボード

(4) ［ドライバ］タブの［ドライバの更新］をクリックし、［このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する］を選択する。

(5)「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語 PS/2 キーボード（106/109キー）を選択して[次へ] をクリックする。

(6) ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。

(7) 以下のメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックして操作を続行する。

【?】 Windowsの動作が不安定

□ システムのアップデートを行いましたか？

→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。
システムのアップデート手順は、EXPRESSBUILDERに格納されている各OSのインストレーションサプリメントガイドを参照してください。

【?】 STOPエラーが発生した時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

→ 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。また、この現象発生時に画面に青い縦線が入るなど、画面が乱れる場合があります。

【?】 ブルー画面（STOPエラー画面）で電源OFFができない

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(POWER/SLEEPスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

【?】 バックアップツールからシステムをリストア後、動作がおかしい

→ EXPRESSBUILDERを使ってシステムをアップデートしてください。

【?】 Telnetサービスがインストールされていない

→ コンピュータ名を14文字以下にして、<Telnetサービスのインストール手順>に従ってTelnetサービスをインストールしてください。

<Telnetサービスのインストール手順>

(1) スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

(2) [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。

(3) スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧にTelnetサービスが登録されていることを確認する。

* Telnetサービスのインストール後は、コンピュータ名を15文字以上に設定しても問題ありません。

[?] リモートPower On/Off(Wake ON LAN)が機能しない

→ AC ON直後は、リモートPower ON/OFF機能(Wake ON LAN)は使用できません。いったん、Windows 2003を起動し、以下の設定を行いシャットダウンしてください。その後は、AC OFFしない限り、リモートPower ON/OFF機能を利用できます。

[スタート] → [管理ツール] -> [コンピュータの管理]からデバイスマネージャを選択し、ネットワークアダプタ配下の [Intel(R) PRO/1000 82574L Gigabit Network Connection] をダブルクリックし、[詳細設定]のタブから以下を設定してください。

PMEをオンにする：[オン]
Wake On 設定　：[Magic Packet]

[?] /3GBスイッチ使用時、OSが起動しない

→ /3GBスイッチ使用時、OSが起動しなくなる場合があります。
その場合は以下のURLを参照し、/uservaスイッチを使用してユーザーモードの領域を適切な値に調整してください。
http://support.microsoft.com/kb/316739/ja

[?] システム時刻がずれる

→ NTP（Network Time Protocol）サーバなど時刻を調整するサーバを利用しない場合、実時刻に対してシステム時刻がずれることがあります。
この場合は、NTPサーバを利用するか、Windows Timeサービスを無効に設定してください。

[?] Windowsのインストール時に、DMIイベントログに「PCI Express Correctable」のメッセージが登録される

→ Windowsインストール時に本メッセージが登録される場合がありますが、システムの運用上問題ありません。

EXPRESSBUILDERについて

EXPRESSBUILDERから起動できない場合は、次の点について確認してください。

□ POSTの実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しましたか？

→ POSTを実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

□ BIOSのセットアップを間違えていませんか？

→ BIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティで光ディスクドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
<確認するメニュー：「Boot」>

□ 未フォーマット状態のFlash FDD、又はFDを接続していませんか？

→ 接続されているFlash FDD、又はFDがWindowsからフォーマット済みと認識されることを確認してください。未フォーマット状態の場合はフォーマットしてください。

□ Boot selection画面で『Os installation***default***』を選択した場合に以下のようなメッセージが表示されます。
メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因
EXPRESSBUILDER は、このコンピュータを動作対象としていません。 正しいバージョンをセットして「OK」ボタンを押してください。 （「OK」ボタンを押すと再起動します）	EXPRESSBUILDER の対象装置ではありません。 対象装置で実行してください。
マザーボード上のハードウェアに関する情報を取得できませんでした。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。 （「OK」ボタンを押すと再起動します）	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDER が装置固有情報を見つけられない場合に表示されます。
マザーボード上のハードウェアに関する情報が不正です。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。 （マザーボード交換直後にこのエラーが出たときは、「Maintenance Utility」を使ってハードウェアの情報を正しく設定してください）	

□ Windows用OEM-Disk が作成できない場合、以下のようなメッセージが表示されます。
メッセージの内容を確認して、原因にある対処を行ってください。

メッセージ	原因
フォーマットに失敗しました。書き込み禁止になっているか、フロッピーディスクが破損している可能性があります。 フロッピーディスクを確認し、再度 OEM-Disk の作成を実行してください。	Flash FDD もしくはフロッピーディスクが書き込み禁止になっています。 書き込み禁止を解除してください。 フロッピーディスクをご使用の場合で、書き込み禁止になっていない場合、フロッピーディスクドライブを接続しなおしてください。
ファイルの削除に失敗しました。 書き込み禁止になっていないかなど、メディアの状態を確認してください。	

シームレスセットアップについて

[?] ドメインに参加するように設定したのに、ワークグループでインストールされている

→ LANケーブルが接続されていなかった場合、ドメイン参加設定ではなく、ワークグループ設定でインストールされます。
OS起動後に、ドメイン参加を行ってください。

[?] シームレスセットアップ中、外付けハードディスクドライブの中身が消去された

□ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続していませんか？

→ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを取り外し、シームレスセットアップを行ってください。

[?] ネットワークの接続名が『Local Area Connection』になっている

→ シームレスセットアップの仕様です。
ネットワーク接続名を変更する場合は、シームレスセットアップ完了後に実施してください。

[?] HDDの先頭に未使用領域がある

□ インストールしたOSはWindows Server 2003ですか？

→ Windows Server 2003 でシームレスセットアップを実行した場合、HDDの先頭8MBが未使用領域となる場合がありますが、システム運用上、問題ありません。

[?] プロダクトキーを入力するタイミングがない

□ Windows Server 2008 の場合

→ バックアップDVD-ROMを使用してインストールする場合、プロダクトキーの入力は必要ありません。バックアップDVD-ROM以外のOS DVD-ROMを使用している場合は、プロダクトキーの入力画面が、“OSセットアップ中”および“OSインストール後に表示される[マイクロソフトソフトウェアライセンス条項]前”に2回表示されますのでメッセージに従ってプロダクトキーを入力してください。

□ Windows Server 2003 の場合

→ バックアップCD-ROMを使用してインストールする場合、プロダクトキーの入力は必要ありません。バックアップCD-ROM以外のOS CD-ROMを使用している場合は、プロダクトキーの入力画面がOSセットアップ中に表示されますのでメッセージに従ってプロダクトキーを入力してください。

【?】 <u>Windows Server 2008をシームレスセットアップでIISをインストールした場合、以下の機能がインストールされている</u>

□ Windows プロセスアクティブ化サービス

－ プロセスモデル

－ 構成API

□ リモートサーバ管理ツール

－ 役割管理ツール

－ Webサーバ(IIS)ツール

→ IISの基本機能をインストールする場合は、上記の機能をインストールする必要があるため、有効になります。

オートランで起動するメニューについて

[?] オンラインドキュメントが読めない

□ Adobe Readerが正しくインストールされていますか？

→ オンラインドキュメントの一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Readerをインストールしておいてください。

□ 使用しているOSは、Windows XP SP2ですか？

→ SP2にてオンラインドキュメントを表示しようとすると、ブラウザ上に以下のような情報バーが表示されることがあります。

セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブ コンテンツは表示されないよう、Internet Explorerで制限されています。 オプションを表示するには、ここをクリックしてください...

この場合以下の手順にてドキュメントを表示させてください。

(1) 情報バーをクリックする。
ショートカットメニューが現れます。

(2) ショートカットメニューから、「ブロックされているコンテンツを許可」を選択する。
「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックスにて「はい」を選択する。

[?] メニューが表示されない

□ ご使用のOSは、Windows XP以降、またはWindows 2003以降ですか？

→ 本プログラムは、Windows XP以降またはWindows 2003以降のオペレーティングシステムにて動作させてください。

→ Windows 2000の場合は、あらかじめIE6.0をインストールしてください。

□ <Shift>キーを押していませんか？

→ <Shift>キーを押しながらディスクをセットすると、オートラン機能がキャンセルされます。

□ OSの状態は問題ありませんか？

→ レジストリ設定やディスクをセットするタイミングによっては、メニューが起動しない場合があります。そのような場合は、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、セットした光ディスクドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

[?] メニュー項目がグレイアウトされている

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境にて実行するようにしてください。

【?】 メニューが英語で表示される

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ オペレーティングシステムが英語バージョンの場合、メニューは英語で表示されます。日本語メニューを起動させたい場合は、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください。

ExpressPicnicについて

【?】 ExpressPicnicが起動できない

→ ExpressPicnicは、「Microsoft® HTML Application host」の関連付けを行ってください。

（1） Windowsのスタートメニューから［ファイル名を指定して実行］を選択する。
（2） 「%windir%¥system32¥mshta.exe /register」と入力する。

ESMPROについて

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）について

→ 添付のEXPRESSBUILDER DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

ESMPRO/ServerAgent（Linux版）について

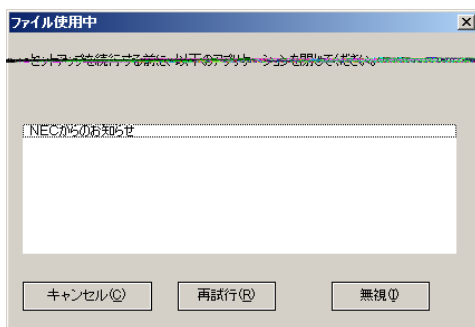
→ 添付のEXPRESSBUILDER DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Linux版）ユーザーズガイド」、「ESMPRO/ServerAgent（Linux版）インストレーションガイド」で詳しい使い方やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

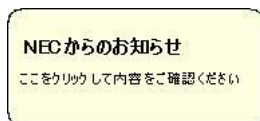
ESMPRO/ServerManagerについて

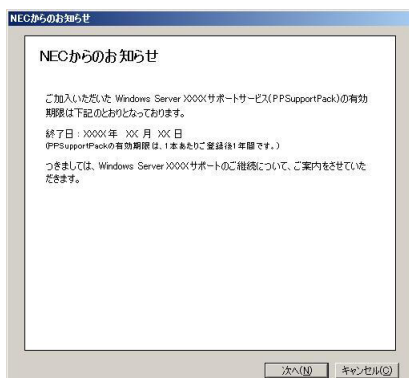
→ 添付のEXPRESSBUILDER DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

情報提供ツール「NECからのお知らせ」

[?] .NET Framework Version 2.0 以降のインストール時に、情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させる旨のメッセージが表示される

→ 情報提供ツール「NECからのお知らせ」をインストールしている環境で.NET Framework Version 2.0 以降をインストールする場合、事前に情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させる必要があります。情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させた後、改めて.NET Frameworkのインストールを開始してください。.NET Framework インストール終了後、情報提供ツール「NECからのお知らせ」を起動させてください。修復・削除時も同様です。

【情報提供ツール「NECからのお知らせ」終了手順】

(1) デスクトップに表示されている次の画面をクリックする。

(2) 次の画面が表示されたら［キャンセル］をクリックする。

以下のメッセージが表示される場合がありますが、[キャンセル]をクリックしてください。

(3)　次の画面が表示されたら［いいえ］をクリックする。

画面右下のタスクトレイに情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアイコンのみ表示されている場合は、アイコンをクリックして手順2、手順3を実施してください。

以上で、【情報提供ツール「NECからのお知らせ」終了手順】は完了です。

.NET Framework Version 2.0以降のインストール後や修正・削除後、スタートメニューから［プログラム］をポイントし、［NECからのお知らせ］から［NECからのお知らせ］をクリックし、再度情報提供ツール「NECからのお知らせ」の実行、設定を実施してください。

RAIDシステム、RAIDコントローラについて

RAIDシステムを構成している本体装置がうまく動作しないときや、管理ユーティリティが正しく機能しないときは次の点について確認してください。また、該当する項目があったときは、処理方法にしたがった操作をしてください。

[?] OSをインストールできない

□ RAIDコントローラのコンフィグレーションを行いましたか？

→ RAID コンフィグレーションユーティリティ (LSI Software RAID Configuration UtilityやWebBIOS)を使って正しくコンフィグレーションしてください。

[?] OSを起動できない

□ RAIDコントローラのBIOS設定が変更されていませんか？

→ RAID コンフィグレーションユーティリティ (LSI Software RAID Configuration UtilityやWebBIOS)を使って正しく設定してください。

□ POSTでRAIDコントローラを認識していますか？

→ RAIDコントローラが正しく接続されていることを認識してから電源をonにしてください。

→ 正しく接続していても認識されない場合は、RAIDコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

[?] リビルドができない

□ リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？

→ 故障したハードディスクドライブと同じ容量のハードディスクドライブを使用してください。

□ 論理ドライブが、RAID0ではありませんか？

→ RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。故障したハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、初期化を行ってからバックアップデータを使用して復旧してください。

[?] オートリビルドができない

□ ハードディスクドライブを交換するときに十分な時間をあけましたか？

→ オートリビルドを機能させるためには、ハードディスクドライブを取り出してから取り付けるまでの間に90秒以上の時間をあけてください。

□ 設定を間違えていませんか？

→ LSI Software RAID Configuration Utilityを使って、オートリビルドの設定を確認してください。TOPメニュー→「Objects」→「Adapter」→「Auto Rebuild」

＊　WebBIOSにはオートリビルドの設定はありません。

[?] ハードディスクドライブがFailになった

→ 契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。

【?】 Universal RAID Utilityの物理デバイスの情報の一部が正しく表示されない

→ LSI Embedded MegaRAID™をご使用の場合、Universal RAID Utilityの物理デバイスの情報の一部が正しく表示されない場合があります。

その他について

【?】 以下のメッセージが表示される

```
Spurious 8259A interrupt:IRQ7(IRQ15)
```

→ メッセージについては割り込みコントローラ(8259)がIRQを正しく受け取れなかったことをCPUへ通知した際に表示されるメッセージであり、本メッセージについては無視するようお願い致します。

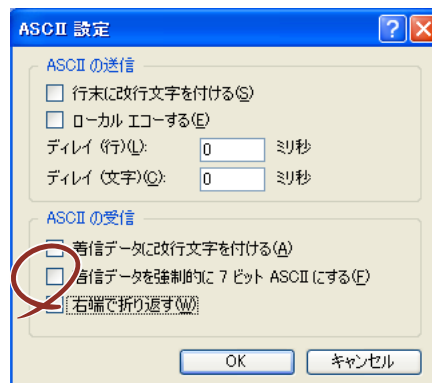
→

【?】 シリアルコンソールとして使用しているハイパーターミナルの画面が自動的にスクロールしてしまう。

→ シリアルコンソールにWindowsのハイパーターミナルを使用される場合には、設定を変更していただく必要があります。

【Windows XPでの例】

(1) ハイパーターミナルの画面上部にある、選択項目からファイル配下のプロパティを選択し、接続のプロパティを開いてください。

(2) 接続プロパティの設定タブにて、[ASCⅡ設定] 画面を開き[右側で折り返す]のチェックを外してください。

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。

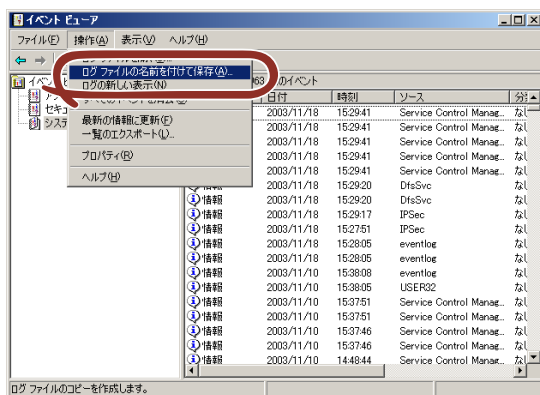
- **以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。**
- **障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。**

イベントログの採取

装置に起きたさまざまな事象（イベント）のログを採取します。

STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. コントロールパネルから［管理ツール］－［イベントビューア］をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

   ［アプリケーション ログ］には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。［セキュリティ ログ］にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。［システム ログ］にはWindowsのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。
3. ［操作］メニューの［ログファイルの名前を付けて保存］コマンドをクリックする。

4. ［ファイル名］ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. ［ファイルの種類］リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、［OK］をクリックする。

詳細についてはWindowsのオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取

ハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。

STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

Windows Server 2003の場合

1. スタートメニューから［ヘルプとサポート］をクリックする。
2. ツールバーから[サポート]をクリックする。
3. [関連項目]から[システムの詳細情報]をクリックする。
4. ［システムの詳細情報を表示する］をクリックする。
5. [ファイル]メニューの[エクスポート]コマンドをクリックする。
6. ［ファイル名］ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
7. ［保存］をクリックする。

ユーザーモードプロセスダンプ（ワトソン博士の診断情報）の採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。
詳しくは「導入編」の「ユーザーモードプロセスダンプの取得方法」（124ページ）を参照してください。

メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、ラベルに「NTBackup」で保存したか「ARCServe」で保存したかを記載しておいてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」（Windows Server 2003は119ページ）を参照してください。

- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
- 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

システムの修復

－Windows Server 2008 R2、Windows Server 2008 R2 Foundation、Windows Server 2008の場合－

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、システム回復オプションを使用してシステムの修復を行うことができます。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者のもと実施してください。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

－Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003の場合－

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

- システムの修復後、必ずシステムをアップデートしてください。また、Windowsの場合は、システムのアップデートに加え、各種ドライバをアップデートしてください。詳しくは「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されている各OSのインストレーションサプリメントガイドの「システムのアップデート」、「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してください。
- ハードディスクドライブが認識できない場合は、システムの修復はできません。

保守ツール

保守ツールは、本装置の予防保守、障害解析、設定等を行うためのツールです。

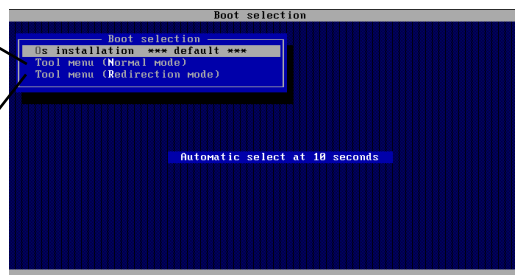
保守ツールの起動方法

次の手順に従って保守ツールを起動します。

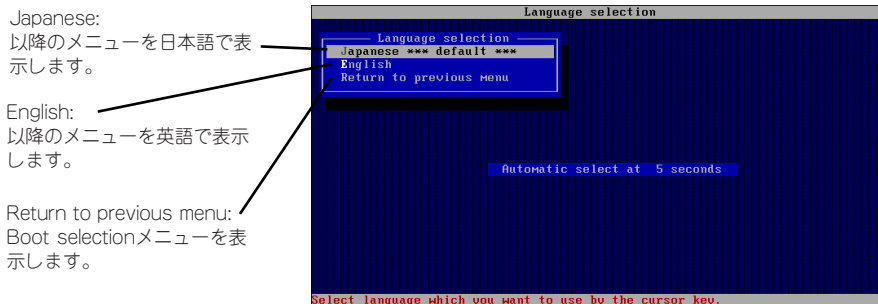
1. 周辺機器、装置の順に電源をONにします。
2. 装置の光ディスクドライブへ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットします。
3. DVDをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして装置を再起動します。

   光ディスクドライブから以下のようなメニューが起動します。

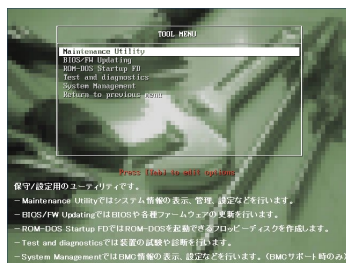
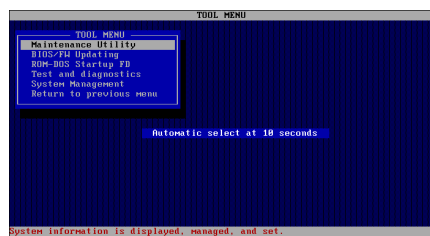
Tool menu (Normal mode):
ローカルコンソールでツールを使用する場合に選択します。

Tool menu (Redirection mode):
コンソールレスでツールを使用する場合に選択します。

メニューの初期選択は「Os installation」となっています。
Boot selectionメニュー表示後、10秒間操作が行われない場合は、「Os installation」が自動で起動します。

4. ローカルコンソールを使用する場合は「Tool menu(Normal mode)」を、コンソールレスで使用する場合は「Tool menu(Redirection mode)」を選択します。

   以下に示すLanguage selection メニューを表示します。

メニューの初期選択は「Japanese」となっています。
Language selectionメニュー表示後、5秒間操作が行われない場合は、「Japanese」が自動で起動します。

5. 「Japanese」を選択します。

   「Japanese」を選択すると次のツールメニューを表示します。

ローカルコンソールを使用した場合

コンソールレスの場合

6. 各ツールを選択し、起動します。

保守ツールの機能

保守ツールでは以下の機能を実行できます。

> 本書内の説明、および各種ツールのメッセージにおいてフロッピーディスクに関する記述がありますが、本製品はフロッピーディスクドライブを内蔵していません。オプションの Flash FDD を使用するか、USB FDD をお持ちの方は USB FDD を使用してください。

● Maintenance Utility

Maintenance Utilityではオフライン保守ユーティリティを起動します。オフライン保守ユーティリティは、本装置の予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害が本装置に起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。

- **オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン保守ユーティリティを起動するとメニュー中にヘルプ（機能や操作方法を示す説明）がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。**

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

－ BIOSセットアップ情報の表示

BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

－ システム情報の表示

プロセッサ(CPU)やBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

－ システム情報の管理

お客様の装置固有情報や設定のバックアップ（退避）をします。バックアップを行うことで、ボードの修理や交換の際に装置固有情報や設定を復旧できます。

システム情報のバックアップ方法については、129ページで説明しています。なお、リストア（復旧）は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

－ HWログ情報の表示

HWログ等の情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

- **BIOS/FW Updating**

弊社Webサイトの以下のページで配布される各種BIOS/FW（ファームウェア）のアップデートを使用して、本装置のBIOS/FWをアップデートすることができます。

［PCサーバ　サポート情報］http://support.express.nec.co.jp/pcserver/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は、配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。

BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は装置の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- **ROM-DOS Startup FD**

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- **Test and diagnostics**

Test and diagnostics（システム診断）では装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。318ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

- **System Management**

BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。
本装置ではサポート対象外の機能です。

移動と保管

装置を移動・保管するときは次の手順に従ってください。

警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリを取り外さない
- 電源プラグを差し込んだまま取り扱わない

注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 中途半端に取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意

- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い上げの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
- ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
- ハードディスクドライブを内蔵している場合はハードディスクドライブに衝撃を与えないように注意して装置を移動させてください。
- 再度、運用する際、内蔵機器や装置を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。
  装置を保管する場合は、保管環境条件（温度：-10℃～55℃、湿度：20%～80%）を守って保管してください（ただし、結露しないこと）。

1. DVD/CD-ROMをセットしている場合は取り出す。
2. 装置の電源をOFF（POWERランプ消灯）にする。
3. 装置に接続している電源コードをコンセントから抜く。
4. 装置に接続しているケーブルをすべて取り外す。
5. 装置に傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包する。

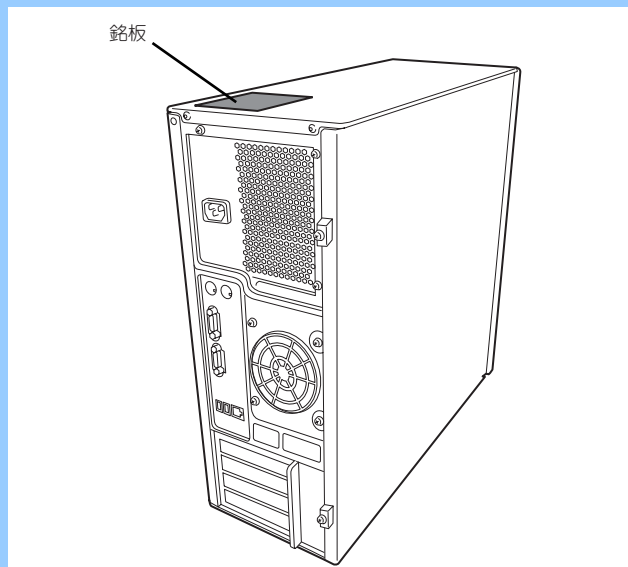
輸送後や保管後、装置を再び運用する場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。
システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。
本装置および、内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因となります。装置の移動後や保管後、再び運用する場合は、使用環境に十分なじませてからお使いください。

ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。
保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社に連絡してください。

- **NEC製以外（サードパーティ）の製品、またはNECが認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた装置の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。**
- **装置に、製品の形式、SERIAL No.（号機番号）、定格、製造業者名、製造国が明記された銘板が貼ってあります。販売店にお問い合わせする際にこの内容をお伝えください。また銘板の号機番号と保証書の保証番号が一致していませんと、保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、販売店にご連絡ください。**
- **銘板は装置の天板に貼り付けてあります。**

修理に出される前に

「故障かな？」と思ったら、以下の手順を行ってください。

1. 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。
2. 「障害時の対処（322ページ）」を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。
3. 本装置を操作するために必要となるソフトウェアが正しくインストールされていることを確認します。
4. 市販のウィルス検出プログラムなどでサーバをチェックしてみてください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社にご連絡ください。その際にサーバのランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプやディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録B「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。
なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。

この装置は日本国内仕様のため、NECの海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- □ 保証書
- □ ディスプレイ装置に表示されたメッセージのメモ
- □ 障害情報（356ページに記載している情報などが含まれます。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください。）
- □ 装置・周辺機器の記録

補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスは弊社の保守サービス会社、および弊社が認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。
なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばせていただきます。さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

NECでは、お客様に合わせてさまざまな契約保守サービスを用意しております。サービスの詳細については、「PCサーバ　サポート情報（http://support.express.nec.co.jp/pcserver/）」をご覧ください。

- **サービスを受けるためには事前の契約が必要です。**
- **サービス料金は契約する日数/時間帯により異なります。**

情報サービスについて

本製品に関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。
※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター
TEL. 03-3455-5800（代表）

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日（祝祭日を除く）

お客様の装置を監視し、障害が発生した際に保守拠点からお客様に連絡する「エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）」の申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。
※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター
TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00～17:00 月曜日～金曜日（祝祭日を除く）

インターネットでも情報を提供しています。

［NEC コーポレートサイト］http://www.nec.co.jp/

製品情報やサポート情報など、本製品に関する最新情報を掲載しています。

http://www.fielding.co.jp/

NECフィールディング（株）ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介しています。